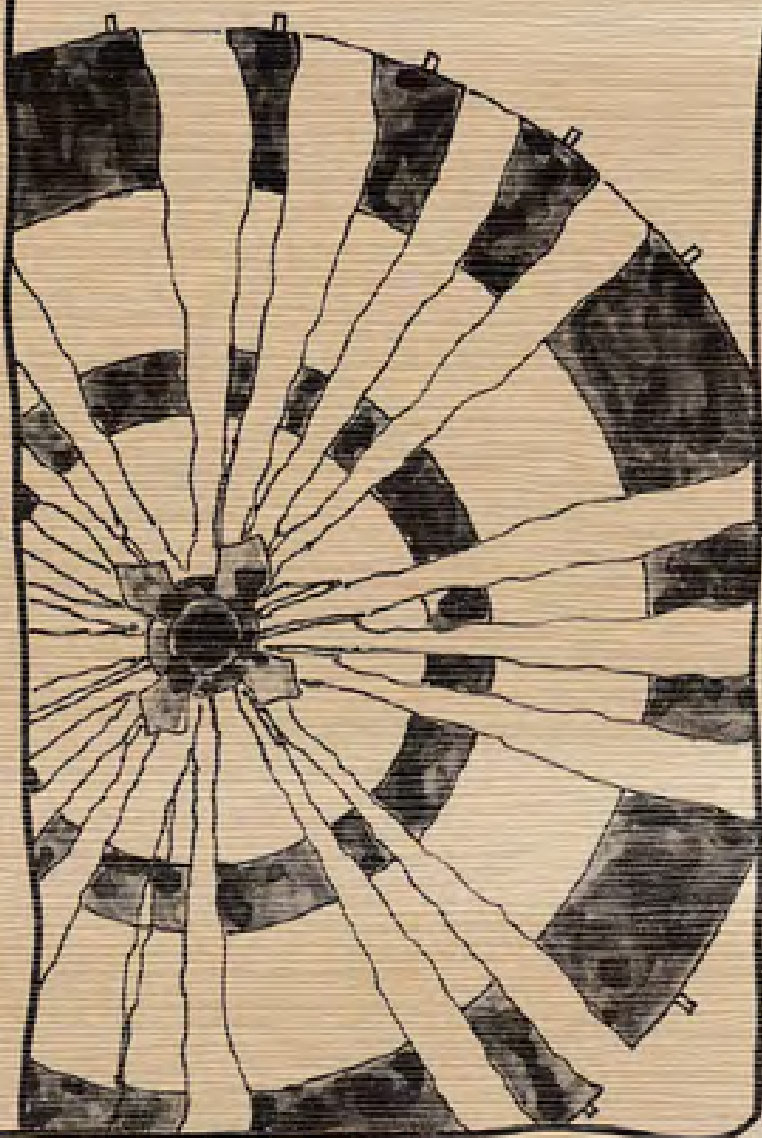


# やぶれ傘



一一一號

二〇一九年十二月

山眠る小学校に大きな木	根橋宏次
一枚の葉もなく柿の実がななつ	大島英昭
一の酉すずめ集まる木が一本	きくちきみえ
二つ目の信号を右おでん屋は	青谷小枝
山門に立て掛けてある熊手かな	廣瀬雅男
日向ぼこしつ昼餉のハムサンド	瀬島酒望
こぼこぼと鳴るはおでんの煮えし音	小山よる
牡蠣とワインのあとのデザートそれはもう	井久保 勲
三十歩枯草原を駆けてみる	藤井美晴
ずずだまがふもとの藪に雑木山	渡邊孝彦
卓上に硝子の林檎時雨来る	安藤久美子
晴天のテレビアンテナ鵬の声	白石正躬
山宿の膳に酢の物濁り酒	天野美登里
銀杏が弾けてゐるよフライパン	有賀昌子
ちよいと汁つけて御岳の走り蕎麦	秋山信行

抄 集 句 傘 紀 大 崎 ぶ や

しばむなよせくな急くなよ朝顔よ	松村光典
間遠なる添水の音や日が暮るる	貫井照子
またひとつ老舗が消える冬隣	野口希代志
記憶力落ちゆくを知る草紅葉	橋本美代
秋茜犬に物言ふ郵便夫	広瀬 濟
木犀の香やコンビニの駐車場	村田 武
林間の小径にぼつと曼珠沙華	森 美佐子
うつ伏せに案山子倒れてをりにけり	安齋正蔵
下北の土は黒々こぼう掘り	泉 一九
競りおとす鯨を見つめる男の目	稲田延子
みかんもぐ人ゐてふたつもらひけり	倉澤節子
東向いて食べる初物柿甘し	齋藤朋子
勾玉は胎児のかたち冬来る	柴崎和男
来し方も行く末も夢曼珠沙華	竹内文夫
鳴く虫を夜具のぬくみの中に聞く	中島和子

茶の花

大崎紀夫

きちきちの飛びゆく方が崖つぶち  
風やんでゐる放課後の糸瓜棚  
鯰はねてはねて差し潮ぐんぐんと  
茱萸まつ赤昼の日中に鶏が鳴き  
蓑虫は眠り坊主は庭を掃き

猪撃つてきたる男のにほひゐる  
鶏頭に拳で触れて掌で触れて  
菊芋の群れ咲く方へはすかひに  
畑道の尽きて茶の花咲く道に  
直角に曲がる山茶花垣に沿ひ  
冬晴れの空地に竹の棒が立ち  
金網の上で蜜柑を焼いてゐる

山眠る

根橋宏次

置き直しおきなほし描くら・フランス  
パイプ椅子たたんでをはる運動会  
田仕舞の煙は雨をのぼりゆく  
神の留守手帳の殴り書き読めず  
日の差せるほそみちつづきぬる寒さ  
豆腐屋は昼をしづかに花八つ手  
冬の鴉さしたる高さなき梢に  
大川をあかず見てゐる千歳飴  
山眠る小学校に大きな木  
小春日のかまぼこ屋から出るけむり

秋の蝶

大島英昭

畑とも庭とも柿の実のたわわ  
竹藪の竹みつしりと穴まどひ  
病院のバス停にバス秋あかね  
晴れわたる道に畑に秋の蝶  
秋しぐれ点けつばなしのウインカー  
冬近し丸太に残る雨の跡  
一枚の葉もなく柿の実がななつ  
真昼間の焚き火の音が聞こえだす  
犬を見て犬引く人を見る小春  
どぶ川も道もS字に冬菜畑

一の酉

きくちきみえ

銀杏の車道へ落ちてゆくものも  
鶏頭を活けた花瓶の置きどころ  
おはじきの跳んで何処かへ秋の雨  
池の辺の落葉は池の水面へと  
一の酉すずめ集まる木が一本  
縮むだけ縮んでしまふ鍋の牡蠣  
柿の種ぬるりドラマは佳境へと  
やすやすと流れに乗つて枯葉ゆく  
酉の市出でて信号待ちにけり  
かばんよりいつもの帽子冬に入る

おでん屋

青谷小枝

剣道部 テニス部 走る 鱈雲  
秋夕 焼け 放送室に 朗読部  
秋深し 書架に 凭れて 書を読めば  
草の穂を 噛めば たれかが ハーモニカ  
めひし ばに 出しばかりの 日があたる  
草野球 へくそ かづらの 実が 乾き  
十三夜 ティーサーバーに 湯を 満たし  
冬近し レーズンパンを 軽く 焼き  
切干を 煮てをり 午後も よく 晴れて  
二つ目の 信号を 右 おでん屋は



熊手

廣瀬雅男

高 空 に 鳶 の こ 糸 聞 く 初 紅 葉  
名 を 知 ら ぬ 茸 が 道 の 真 ん 中 に  
青 蜜 柑 爪 を 立 て れ ば 匂 ひ け り  
南 天 の 実 の 傍 ら に 手 水 鉢  
風 の 音 聞 こ ゆ る 夜 の 菊 脛  
出 水 跡 残 る 畦 道 茨 の 実  
竹 林 の 小 道 を 行 け ば 添 水 鳴 る  
鳥 居 の み 残 る 社 や 木 の 実 落 つ  
ま さ を な る 空 と 紅 葉 を 見 て 帰 る  
山 門 に 立 て 掛 け て あ る 熊 手 かな

日向ぼこ

瀬島酒望

曼殊沙華道ゆくひとを見てみたり  
跳ぶ方へきちきち向きを変へにけり  
青空を消してゆく雲 秋燕  
テーブルに菓子花生けに貴船菊  
当ててごらん団栗握る手はどつち  
颱風に飛ばされてゆくものの音  
秋時雨梧桐の葉が濡れてゐる  
画材屋の横に板切れ昼の虫  
キッチンに床に冬瓜寝かせけり  
日向ぼこしつつ昼餉のハムサンド

おでん

小山よる

渋過ぎるお茶に湯を足す秋の夜  
野球部がダッシュしてゐる暮の秋  
秋の空鴉はうまく浮かびたる  
冬浅き二十階より昼の月  
小春日の座椅子に座るぬひぐるみ  
窓拭きは冬日にあたりながら降り  
じんわりと砂糖崩れる冬の夜  
こぼこぼと鳴るはおでんの煮えし音  
よく見ても何かわからぬ寒灯下  
シチュー啜れば隙間風また吹いて

薄紅葉

丑久保勲

爽やかや眼鏡を拭いて空を見て  
身に入むや家の柱にぶつかつて  
永観堂の見返り阿弥陀薄紅葉  
まづ駅の脇の地図見る紅葉山  
朝霧が我が家の庭を動きぬる  
飾る絵を掛け替へてゐる小春かな  
首都高の冬の満月真向かひに  
牡蠣とワインのあとのデザートそれはもう  
秋晴れの木橋の先に土竜塚  
障子貼る刷毛は三十年物で

花八つ手

藤井美晴

喪の門かどに「帰浄」の墨書花八つ手  
雀かと思ふ辛夷の枯葉落ち  
スタンドのシェードに冬の蠅がゐる  
川に雨川の向うに枇杷の花  
飛行機の灯が過ぎてゆくオリオン座  
冬の雨ブルーシートに音のして  
鉄棒が冷たい五秒ぶら下がり  
冬の星マンホールから水のごゑ  
三十歩枯草原を駆けてみる  
冬桜見てきて熱い茶をすすする

ずずだま

渡邊孝彦

鶏頭が畑に咲いて西の京  
田んぼ見て行けば菊芋道のべに  
破芭蕉バス停奥の坂道に  
石壁の隙の漆が紅葉して  
ずずだまがふもとの藪に雑木山  
長き坂登つて下る紅葉狩り  
黄葉するケヤキ校庭沿ひの坂  
ユリの木の黄葉かつ散るバス通り  
午後に入り田んぼ明るむ暮の秋  
山茶花が咲き参道に太鼓橋

短 日

安藤久美子

片側の道路工事や薄紅葉  
新蕎麦と出されて少し足りぬほど  
行き止まるまでは左右に草紅葉  
百舌鳥の声鋭し旅に出る朝は  
冬隣り花屋の前に小半時  
そぞろ寒大理石調風呂の壁  
横向きにすたとんと寝入る秋の夜  
卓上に硝子の林檎時雨来る  
短日の動物園のアナウンス  
天井の不思議な模様虎落笛

鴉の声

白石正躬

折りをりに赤城山みて大根蒔く  
枝豆につぎつぎと手が出でにけり  
猫じゃらし揺らす東京行電車  
雨の夜の渡り廊下に虫の声  
月の夜の畑に芋の葉の静か  
秋の月田に幾つもの水溜り  
晴天のテレビアンテナ鴉の声  
近づけば川に飛び込む鴨の群れ  
朝寒の川辺に路線バスが待ち  
落葉するひとり歩きの山の径



山宿

天野美登里

山宿の膳に酢の物濁り酒  
海岸に砂の風紋鱗雲  
竹伐りの済みし夜更けに嵐来る  
獣道消えて鶉上戸の実  
葛の花カーブミラーに小石跳ね  
消しゴムのかすは机に秋深し  
夜学校瓶牛乳とコッペパン  
ゆるやかな川の流れや穴惑ひ  
古井戸は潤れて紫式部の実  
干柿の小屋の軒より暮れかかる

銀杏

有賀昌子

十月や一枚硝子磨き込む  
真葛原出会ひがしらに犬が吠え  
銀杏が弾けてゐるよフライパン  
朱の鳥居くぐり新酒の化粧樽  
湯上りの舌にころがす今年酒  
竜胆を父の遺愛の壺に活け  
切り株の椅子のさまざま虫のこゑ  
秋深しシャンソン聴いて涙して  
烏瓜飾る銀座のショーウインドウ  
天狗茸奥の祠はえんま堂

走り蕎麦

秋山信行

朝市にちよいと山椒の実をつまむ  
ちよいと汁つけて御岳の走り蕎麦  
一日のどつと暮れゆく秋なすび  
長き夜のワイングラスは此れと決め  
柿ひとつ備前の壺の脇におく  
朝顔や郵便受けに児の便り  
秋夕焼け塔に鴉の鳴きつづけ  
紐はつて畝を立てけり秋の蝶  
間引き菜の棄てられてゐる畑の隅  
霧深し海鳥のこゑ遠くして

朝顔

松村光典

しぼむなよせくな急くなよ朝顔よ  
秋日和ヨチヨチ走る母のゐて  
秋空に煙突長き焼却炉  
どこからかモクセイ香る三丁目  
天高く腹が減るなり稽古前  
秋の陽に背中温めて散歩かな  
秋の日をペダルで免許返納者  
街頭にけふも秋雨降りしきる  
女房の足揉みをして夜長し  
蝶が減つてあるとのニュース小六月

## ◇1月・2月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
1月	7日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	7日(火)	PM6:00	うらら会	武蔵浦和コミセン	瀬島 孟
	8日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン4	丑久保 勲
	10日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	18日(土)	PM2:00	セニヨリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	25日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	25日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	31日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
2月	3日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	4日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	4日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	瀬島 孟
	7日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	7日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン8	丑久保 勲
	15日(土)	PM2:00	セニヨリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	16日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	大宮第2公園	丑久保 勲
	22日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	22日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

[注] ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

1月のNHKは1月31日(金)です。

2月16日(日)の吟行。集合は10時。

集合場所はJR大宮駅中央改札口を出たところ。

吟行地は大宮第2公園の梅園。

句会場は武蔵浦和コミセン・第1集会室。

◎連絡先	瀬島 孟	☎ 048-862-2757	藤井美晴	☎ 0422-55-2733
	大島英昭	☎ 048-592-5041	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
	廣瀬雅男	☎ 048-443-7522	丑久保 勲	☎ 048-853-3856